

第2学年国語科学習指導案

1 単元名 音読げきをしよう「お手紙」

2 指導の考え方

—子どもの実態—

本学年の子どもたちは、これまで物語文「ふきのとう」「スイミー」の学習で、登場人物のしたことを「～は」「～が」に注目して、場面の様子や登場人物の行動を考えながらお話の筋をとらえてきた。類義語と比べて読んだり、挿絵と言葉をつないで読んだりすることを通して、それぞれの言葉がもつ意味を考え、場面ごとの登場人物の様子や気持ちを考えたりしながら読むことができるようになってきている。

しかし、積極的に自分の考えを述べたり、最後まで友達の考えを聞いて、そのよさを受け止めたりすることは、まだ十分ではない。

—教材の特質—

本教材は、一度もお手紙をもらったことがなく悲しい気持ちでいるがまくんの姿を見て、何とかしてあげたいと思ひやるかえるくんと、かえるくんのお手紙によって自分の近くに親友がいたことに改めて気づき喜びに浸るがまくんと温かい心の交流が表現されている。友達に関心を持ち始めている2年生にとって、共感する部分が多い作品であると思われる。また、挿絵によって、話の筋や場面の移り変わりが分かりやすく、文と挿絵をつないで登場人物の気持ちを考えることができる。文は短い会話文を中心に構成されているので、会話文を読むことで登場人物に同化し、言葉に立ち止まって気持ちを読み取るのに適した教材である。単元の初めに、「音読劇をしよう」という目的意識や相手意識をもたせ、読み深めたことを工夫して表現活動を行うことができる。

挿絵・会話文・行動の順序や叙述にある類義語・繰り返しの言葉に着目させ、場面のつながりを読むことで、2年生の目ざす力である「挿絵を手がかりに話のまとまりと順序をとらえる力」「主人公の行動を中心に様子や理由を想像を広げながら読む力」「楽しんで読書しようとする力」を身に付けさせることが期待できる。

—指導にあたって—

指導にあたっては、読むことの楽しさや価値を実感させることができるように、以下のような授業づくりを行う。

単元の入り口では、単元名「音読げきをしよう」からまとめの時間に音読発表会を位置づけ、さらにミュージック集会以音読劇で発表しようと思ひをつなげ、かまえをつくる。

読みのめあてをつくる段階では、題名と冒頭から「お手紙をもらえないでかなしい気分でげんかんの前にこしをおろしているかえるくんとがまくんが、これからどうなるお話だろう。」とお話の展開に興味をもたせて読みのめあてを生み出す。

読みのめあてに対する初めの考えの考えをつくる段階では、かえるくんとがまくんの会話文をシールで色わけし、誰が言った言葉かを明確にする。ここでは、話の筋を運ぶかえるくんのしたことに線を引き、挿絵と叙述をつなぎながら挿絵を並びかえ、かえるくんがしたことを中心にあらすじをとらえさせる。

学習計画を立てる段階では、かえるくんがしたことに目を向け、疑問に思うことやもっと詳しく知りたいことを「疑問」(はてな)として整理し、読み深める必要感をもたせて学習計画を立てる。

読み深めの段階では、めあてにつながる言葉や文から、かえるくんの様子や気持ちを読み取り、お話を詳しくしていく。場面ごとの叙述の中の大切な文や言葉に立ち止まらせ、かえるくんとがまくんの行動の様子を想像させ、2人の心のつながりを読み深めさせる。

読みのまとめの段階では、かえるくんとがまくんの様子や気持ちを読み取ってきたことを振り返り、それらを表現するためにどのように音読を工夫すればよいのかをまとめ、読み深めた表現の工夫をもとに音読発表会をする。

単元の出口では、ミュージック集会で、全校のお友達やお家の人に、場面ごとの登場人物の気持ちが、伝わるような音読を工夫させ、「お手紙」の音読劇を行うことができるようにする。

☆焦点化

- かえるくんとがまくんの会話に着目させる。
- かえるくんの行動に着目させる。
- 根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせる。
- 書き出しを与え、かえるくんの行動の様子とその理由をもとに書きまとめさせる。

☆可視化

- 板書の工夫
 - ・ 会話を分けて板書する。
 - ・ 様子と理由が分かるように赤フォークで囲み番号をつける。
- 会話文をシールで色分けをして整理させる。
- 挿絵や叙述を指しながら話し合わせる。

☆共有化

- 2人、または3人組の少人数で交流させる。
- 相手の話を最後まで聞かせる。
- 尋ねたいこと質問させる。
- 動作化、音読しながら登場人物の様子を想像させる。
- 根拠を明らかにして話させる。

3 目標

- かえるくんとがまくんの心のふれあいを読み取り、相手が悲しい気持ちのときに、声をかけたり励まし続けたりするのが「親友」であることを理解し、友だちに対する考えを深めることができるようにする。
- かえるくんとがまくんの会話や行動をもとに、したことを順序よくとらえ、場面と場面をつないで読む読み方や挿絵と登場人物の言動をつないで読む読み方を身に付けることができるようにする。
- 挿絵と叙述をつなぎ、音読や動作化をしたり対話や交流をしたりしながら、かえるくんの様子や気持ちについて話し合うことができるようにする。

4 学習計画(全15時間)

次時	学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化, 可視化, 共有化の視点から*評価規準)
一 読み の め あ て 15	<p>1 本単元「音読げきをしよう」の学習の構えをつくる。 (1) 単元名とリード文を読み、読みの構えをつくる。</p> <p>だい名とお話のはじめから、読みのめあてをつくろう。</p> <p>2 題名「お手紙」について話し合い、読みの視点をとらえる。</p> <p>3 読みのめあてをつくる。</p>	<p>○ 単元名とリード文から学習の構えをもたせる。</p> <p>☆ 「お手紙」の音読劇をミュージック集会で全校のお友達やお家の人に見てもらおうと意欲づけ、学習の見通しをもたせる。(焦点化)</p> <p>○ お手紙についての自分の経験を出させる。(だれに、どんなお手紙をもらったり、あげたりしたか、そのときの気持ちはどうだったか。)</p> <p>○ 「は」や「が」などの主語に着目して、したことや言ったことにサイドラインを引かせる。「ふたりとも」がしたことにも着目させる。</p> <p>○ 挿絵を見る視点を確認する。(目、口、視線、表情、肩、背中、手、足)</p> <p>○ 「ふたりとも」に着目し、がまくんとかえるくん、それぞれのかなしい気分について考えさせる。</p> <p>○ お話がこれからどうなるかという展開に興味を持たせて読みのめあてをつくらせる。</p>
<p>音読げきをしよう ※登場人物の気持ちになって声に出して読むために、様子や行動、そして会話文を読もうという心構えをつける。</p> <p>お手紙 ※お手紙についての自分の経験をださせる。ことばをはずして読む ※「お」に着目しはずして読むことで、その意味を考え、大事なことが書いてある大切な物だということをとらえさせる。</p> <p><u>ふたりとも、かなしい気分</u>で、げんかんの前にこしを下ろしていました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>がまくん…かなしい ふしあわせな気持ち</p> </div> <div style="text-align: left;"> <p>お手紙を待つ時間 お手紙を一どももらったことがない</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> <p>かえるくん…かわいそう さびしいだろうな</p> </div> <div style="text-align: left;"> <p><u>一どもかい</u> ※文末表現を読む事でかえるくんの驚きとがまくんへの思いをとらえさせる。</p> </div> </div> <p>さしえを読む ※「ふたりとも」に着目し、それぞれのかなしい気分について考えさせる。</p>		
<p>読みのめあて かなしい気分でげんかんの前にこしを下ろしているがまくんとかえるくんが、これからどうなるお話だろう。</p>		
		<p>* 登場人物の言動や挿絵から、気持ちや場面の様子を想像し、読みのめあてをつくっている。</p>

二
読
み
の
め
あ
て
に
対
す
る
初
め
の
考
え

2 お話をさいごまで読んで、読みのめあてについてのはじめの考えをまとめよう。

- 3 1 本時のめあてを確認する。
2 全文を読む。
4 (1)新出漢字や言葉の意味を確認する。
(2)正確にすらすら読めるように練習する。
15 3 話の大体をつかみ、読みのめあてに対する初めの考えを書きまとめる。
(1)かえるくんとがまくんの会話文に色シールをはる。
(2)挿絵を使って、お話の順序をつかむ。
(3)場面ごとに挿絵を手がかりにかえるくんがしたことを中心に初めの考えをまとめ。
【初めの考え】

- 教科書の持ち方や口形に気をつけて、はっきりした声ですらすら音読できるようにする。
☆ かえるくんとがまくんの会話文にシールを貼る。(可視化)
☆ 手紙の部分を囲ませ、書かれている表現をとらえやすいようにする(可視化)。
☆ 冒頭のあとの5枚の挿絵をもとに、最初と最後を意識づけ、全体の順序を確認する。(可視化)
* 本文や挿絵をもとにお話の順序を正しくとらえ、あらすじを書いている。

かえるくんは、大いそぎで家に帰り、がまくんに手紙を書いた。知り合いのかたつむりくんに、手紙をがまくんの家のゆうびんうけに入れてきてくれるように頼んで、がまくんの家にもどった。がまくんは、家でお昼寝をしていた。かえるくんは窓から見たりのぞいたりしてかたつむりくんがくるのを待った。しかし、かたつむりくんがこないで、かえるくんはがまくんに手紙を書いたことを教えた。それからふたりともげんかんに出てともしあわせな気持ちでお手紙がくるのを待った。4日たって、かたつむりくんががまくんに手紙を渡して、がまくんはととてもよろこんだお話。

三
学
習
計
画

5 読みのめあてについてのはじめの考えをもとに「はてな」を話し合おう。

- 6 1 本時のめあてを確認する。
15 2 かえるくんのしたことを中心に疑問「はてな」を出し合い、くわしく読んでいきたいところを話し合い学習計画をたてる。
【詳しく読んでいくこと】

- ☆ 場面ごとのかえるくんの行動を中心に疑問に思うことやもっと知りたいことを「はてな」として出し合い、読み深めるめあてをつくる。(焦点化)

2 場面	・なぜ、かえるくんは大いそぎで家に帰ったのだろう。 ・なぜ、知り合いのかたつむりくんにおねがいをしたのだろう。
3 場面	・かえるくんは、どんなふうのぞいたのだろう。 ・なぜ、かえるくんは何度も見たりのぞいたりしたのだろう。
4 場面	・なぜ、かえるくんはお手紙を出したことを言ったのだろう。 ・何がいいお手紙なのだろう。
5 場面	・まだ、がまくんは、お手紙をもらっていないのに、ふたりともしあわせな気持ちなのだろう。 ・げんかんで待っている4日間、かえるくんとがまくんは、どんなことを話したのだろう。

- * かえるくんの言動についての疑問を考え「はてなカード」にしている。
☆ あらすじをとらえ、かえるくんとがまくんの気持ちの変化を線で確認する。(可視化)

かえるくんが大いそぎで家に帰った場
めんのお話をくわしく読もう。

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 本時場面を読み、めあてについて話し合う。
 - (1) 本時場面を音読する。
 - (2) 急いでいるかえるくんの様子がわかる言葉にサイドラインを引く。
(書く活動①)
 - (3) かえるくんが急いでいる理由を話し合う。
 - (4) かたつむりくんをお願いした理由を話し合う。
 - ・かっぱタイム
 - ・全体交流

○ 挿絵から本時場面の話をさせ、学習計画の疑問を解決していくことで、お話を詳しくしていくというめあてをつかませる。

☆ 「とび出しました」の叙述に着目させ、「とぶ」と「出ました」と言葉を分けて読むことで、かえるくんの急いでいる様子を読み取らせる。
(焦点化)

○ 「えんぴつと紙を見つけました。紙に何か書きました。～」の短い4文の読み方や動きを工夫して音読させることで、急いで手紙を書こうとしている様子をつかませる。

☆ 急いでいるにもかかわらず、自分でお手紙をわたさずに、かたつむりくんをお願いした理由とその根拠を交流させる。**(共有化)**

* 少人数で話し合ったことを共感的な態度で聞いている。

かえるくんは、大いそぎで家へ帰りました。

いそいで **ことばをはずして読む**

えんぴつと紙を見つけました。

紙に何か書きました。

紙をふうとうに入れました。

ふうとうにこう書きました。

ことばとことばをわけて読む

かえるくんは、家からとび出しました。

とぶ 出ました

「～このお手紙を～ゆうびんうけに入れて来てくれないかい。」

文まつを読む

※急いでいるということが分かる言葉に着目させ、かえるくんが急いでいる様子を読みとらせる。

※「とぶ」と「出ました」を言葉を分けて比べることで急いでいる様子を読み取らせる。

※なぜそんなに急いでいるのかを考えさせる。

※なぜ、かたつむりくんにたのんだのか考えさせる。

がまくんを早くよこばせたい

かえるくんが大いそぎで家に帰ったのはね、がまくんに手紙を書くためだったんだよ。そのわけはね、かえるくんはがまくんによるこんでほしかったからだよ。かたつむりくんにわたしたのはね、ゆうびんうけに手紙がとどいた方が、がまくんがもっとよここんでくれると思ったからだよ。

- 3 本時学習のまとめをする。
 - (1) めあてに対する自分の考えをまとめる。(書く活動②)。
 - (2) 本時でつけた「読みのたから」を確認する。
 - ・言葉をはずして読む。
 - ・言葉と言葉をわけて読む。
 - (3) 読み深めたことをもとに音読する。

☆ 板書を手がかりに、がまくんのために手紙を書いたかえるくんの気持ちを入れて書きまとめさせる。**(可視化)**

* 板書をもとに、書き出しを提示した学習プリントに読み深めたことを様子・わけの順に書きまとめている。

読み深め②
8/15
3組本時

かえるくんがまどの外を見たり、のぞいたりした場めんのお話をくわしく読もう。

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 本時場面を読み、めあてについて話し合う。
 - (1) 本時場面を音読する。
 - (2) かえるくんが見たり、のぞいたりしたことが分かる文にサイドラインを引く。
(書く活動①)
 - (3) 「見ました」の理由を話し合う。
 - (4) 「見ました」「のぞきました」の様子の違いについて考え、かえるくんの様子を話し合う。
 - ・かっぱタイム
 - ・全体交流

○ 挿絵から本時場面の話をさせ、学習計画の疑問を解決していくことで、お話を詳しくしていくというめあてをつかませる。

☆ 「見ました」「のぞきました」の叙述に着目させ、サイドラインを引かせ様子について読み取らせる。(焦点化)

○ 「見ました」「のぞきました」の違いを挿絵をもとに捉えさせる。

☆ 「見ました」「のぞきました」「のぞきました」を動作化させ違いを考えさせ、かえるくんがかたつむりくんを待ちわびる理由とその根拠を交流させる。(共有化)

* 少人数で話し合ったことを共感的な態度で聞いている。

ゆうびんうけを見ました。
 まどからのぞきました。
 まどからのぞきました。

※かえるくんの行動から、早く来てという気持ちがどんどん強くなってきていることをとらえさせる。

※がまくんの言動からどんどんあきらめておちこんできていることをとらえさせる。

がまくんはお昼ねをしていました。
 「いやだよ」
 「ぼく、もうまっているの、あきあきましたよ。」

「そんなこと、あるものかい。」
 「ぼくにお手紙をくれる人なんて、いるとは思えないよ。」

「ばからしいこと、言うなよ。」
 「今まで、だれも、お手紙くれなかったんだぜ。きょうだって同じだろうよ。」

にたことばをくらべて読む
 くりかえしを読む

- 3 本時学習をまとめる。
 - (1) めあてに対する自分の考えをまとめる。(書く活動②)

☆ 板書を手がかりに、早くよるこばせたいえるくんの気持ちを入れて書きまとめさせる。(可視化)

まどの外を何でも見たり、のぞいたりしたときのかえるくんはね、かたつむりくんがお手紙をゆうびんうけに入れてくれるのがまちどおしくて、遠くまでのぞいたんだよ。そのわけはね、お手紙をまつのにあきあきしているがまくんをはげましたくてよるこばせなかったからだよ。

- (2) 本時でつけた「読みのたから」を確認する。
 - ・似た言葉を比べて読む。
 - ・繰り返しを読む。
- (3) 読み深めたことをもとに音読する。

* 板書をもとに、書き出しを提示した学習プリントに読み深めたことを様子・わけの順に書きまとめている。

読み深め
③
9 / 15
① 組本時

かえるくんがお手紙を出したことを言った場めんのお話をくわしく読もう。

1 本時のめあてを確認する。
2 本時場面を読み、めあてについて話し合う。
(1) 手紙を打ち明けるかえるくんとそれを聞いたがまくんの様子を話し合う。
(2) いいお手紙だということが分かる言葉にサイドラインを引く。
(書く活動①)
(3) 手紙の何がいいのかを話し合う。
・全体交流
(4) 「ああ。」にこめられた気持ちを音読し合い、手紙のよさを考える。
・かっぱタイム
・全体交流

○ 挿絵から本時場面の話をさせ、学習計画の疑問を解決していくことで、お話をくわしくしていくというめあてをつかませる。

○ 前の場面とつないで、手紙が届くのを待ちきれずに手紙を書いたことを打ち明けるかえるくんとそれを聞いたがまくんの様子をとらえさせる。

☆ お手紙の何がいいのかに着目させ、かえるくんの気持ちをとらえさせる。(焦点化)
☆ かえるくんが親友だと思ってくれていることを知った喜びの気持ちをとらえさせる。(共有化)

* 少人数で話し合ったことを共感的な態度で聞いている。

「でも、来やしないよ。」
※あきらめていることをとらえさせる。

「きっと来るよ。」
※励ましている気持ちを考えさせる。

「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」
※がまくんを書かせたいという気持ちをとらえさせる。 「きみが。」

『親愛なる がまがえるくん。ぼくは、きみが心がこもっていることをとらえさせる。ぼくの親友であることを、うれしく思っています。』

「～の」を読む

きみの親友 かえる。』

↑ にたことばとくらべて読む

友だち

大切な存在がいることをとらえさせる。

※手紙の言葉に着目させ、内容のよさをとらえさせる。

「ああ。」
※感激していることを読みとらせる。 ことばをはずして読む

「とてもいいお手紙だ。」

※お手紙の何がいいのかを考えさせ、がまくんの喜びの気持ちを読みとらせる。

3 本時のまとめをする。
(1) めあてに対する自分の考えを書きまとめる (書く活動②)

☆ 板書を手がかりに、親友がいることに気付いたがまくんの気持ちを入れて書きまとめさせる。(可視化)

お手紙を出したことを言ったかえるくんはね、がまくんのことととても大切な友だちだと思っているから、がまんできずに言ったんだよ。
お手紙のことを聞いたがまくんはね、自分がかえるくんの大切な友だちだということがわかって、とてもかんどうしたんだよ。

(2) 本時でつかった「読みのたから」を確認する。
・言葉ははずして読む。
・会話文を読む。
・「～の」を読む。
(3) 読み深めたことをもとに音読する。

* 板書をもとに、書き出しを提示した学習プリントに読み深めたことを様子・わけの順に書きまとめている。

読み深め④

げんかんの前にすわっている場面のがまくんとかえるくんをくわしく読もう。

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 本時場面を読み、めあてについて話し合う。

(1) がまくんとかえるくんのしあわせな様子をとらえさせ、四日間、2人はどんなことを話していたのかを想像する。

(書く活動①)

(2) 2人のようすや気持ちを想像したことをもとに、話し合う。

- ・かっぱタイム
- ・全体交流

☆ 最初の挿し絵と比べることによって、がまくんとかえるくんの様子の違いに目を向け、2人ともしあわせな気持ちになったことを挿し絵からも見つけさせる。(焦点化)

○ 挿絵から、お手紙を届けに来たかたつむりくん、お手紙をもらったがまくん、そばで見ているかえるくんの様子を確かめさせる。

☆ 前時までのかえるくんやがまくんの様子を想起させ、四日間の2人の会話をペアになってお話づくりをさせる。(共有化)

○ 2人がしあわせな気持ちになったわけを書かせ、自分のためにお手紙を書いてくれる親友がいること、親友がよろこんでいることがしあわせだということを交流するようにする。

* 想像を広げて読み深めたことをもとに話している。

ふたりとも、かなしい気分で、げんかんの前にこしを下るしていました。

ばめんとばめんをくらべて読む

※挿絵の表情から気持ちの違いを読み取らせる。

さしえをくらべて読む

※2枚目と7枚目の挿絵や文を比べ、気持ちの変化をとらえさせる。

ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。

※2人が幸せになった理由を前の場面の「ああ。」や「親友」などの言葉とつないでとらえさせる。

- 3 本時のまとめをする。
- (1) めあてに対する自分の考えを書きまとめる。(書く活動②)。

○ 板書を手がかりに2人ともしあわせな気持ちで待っていることを入れてまとめを書かせる。(可視化)

げんかんの前にすわっているがまくんとかえるくんの気持ちはね、がまくんは自分のためにお手紙を書いてくれる親友がいることがうれしくて、かえるくんは親友がよろこんでいることがうれしくて、二人ともしあわせな気持ちでお手紙がくるのをまっているんだよ。

- (2) 本時でつかった「読みのたから」を確認する。

- ・挿絵をくらべて読む。
- ・場面と場面を比べて読む。

- (3) 読み深めたことをもとに音読する。

* 板書をもとに、書き出しを提示した学習プリントに読み深めたことを様子・わけの順に書きまとめている。

<p>五 読 の ま と め</p>	<p>11 / 11</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>読みと読み方のまとめをしよう。</p> </div> <p>1 全文を読み通す。</p> <p>2 読みのめあてに対する答えを書きまとめ、本単元で使った「読みのたから」を振り返る。</p>	<p>○ これまで、読み深めてきた様子や行動のわけを振り返らせ、題名「お手紙」に戻り、2人の気持ちを想起しながら読ませる。</p> <p>○ 「挿絵を言葉をつないで読む」「言葉を比べて読む」「似た言葉を比べて読む」などの「読みのたから」を整理して、言葉の読み方についてまとめる。</p>
<p>12 . 13 . 14 / 15</p>	<p>12 . 13 . 14 / 15</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「お手紙」の音読劇をしよう。</p> </div> <p>1 役割を決めて、音読の練習をする。 (1) 少人数でグループ分けをし、それぞれ役割を分担する。</p> <p>2 音読発表会をする。 (1) グループごとに発表する。 (2) よかった所を出し合う。</p>	<p>○ グループで、読み方や動き方を確認し合うように練習をさせる。</p> <p>☆ 「声の大きさ」「読む速さ」「口の開け方」「動き」の観点をあたえ、互いに確認したことをワークシートに記入させる。(可視化)</p> <p>* 自分の役になりきって、気持ちを込めて、音読している。</p> <p>○ グループごとに、最初に工夫したところ・見てもらいたいところを言って、発表させる。</p> <p>☆ 具体的に良かったところと言えるように、発表を見る時の視点を与えておき、ワークシートに示しておく。(共有化)</p> <p>* 読み深めてきたことを取り入れながら、気持ちを込めて音読している。</p> <p>○ 音読発表会で練習したことがミュージック発表会で出せるように意欲をもたせ、学習のまとめをする。</p>
<p>15 / 15</p>	<p>15 / 15</p>	<p>3 アーノルド=ローベルの他の作品を読む。</p>	<p>○ 学校図書館など、「かえるくんとがまくんシリーズ」を紹介し、他の絵本や物語に興味をもたせるようにする。</p>

5 本時 (9/15)
公開授業② 読み深め③

6 本時の目標

- 言葉はずしたり、似た言葉を比べたり、助詞「の」に着目したりしながら、お手紙を出したことを言ってしまったかえるくんの気持ちや、お手紙のことを聞いて「ああ」「とてもいいお手紙だ」と言ったがまくんの気持ちを読み深めることができるようにする。
- 3人組の対話で、一人一人の「ああ」「とてもいいお手紙だ」を音読し合いながら、読み深めたがまくんの気持ちを確認することができるようにする。

7 本時指導の考え方

前時まで、子どもたちは、あきらめて投げやりになっているがまくんと、早くお手紙が届かないかと待ちながら懸命にがまくんを励まそうとするかえるくんの様子や気持ちを読み取ってきている。

本時は、お手紙をすっかりあきらめているがまくんを見て、お手紙を書いたことを打ち明けずにはいられなかったかえるくんの気持ちやお手紙の内容を知り、「ああ」「とてもいいお手紙だ。」と感動するがまくんの気持ちを読み深めていく場面である。

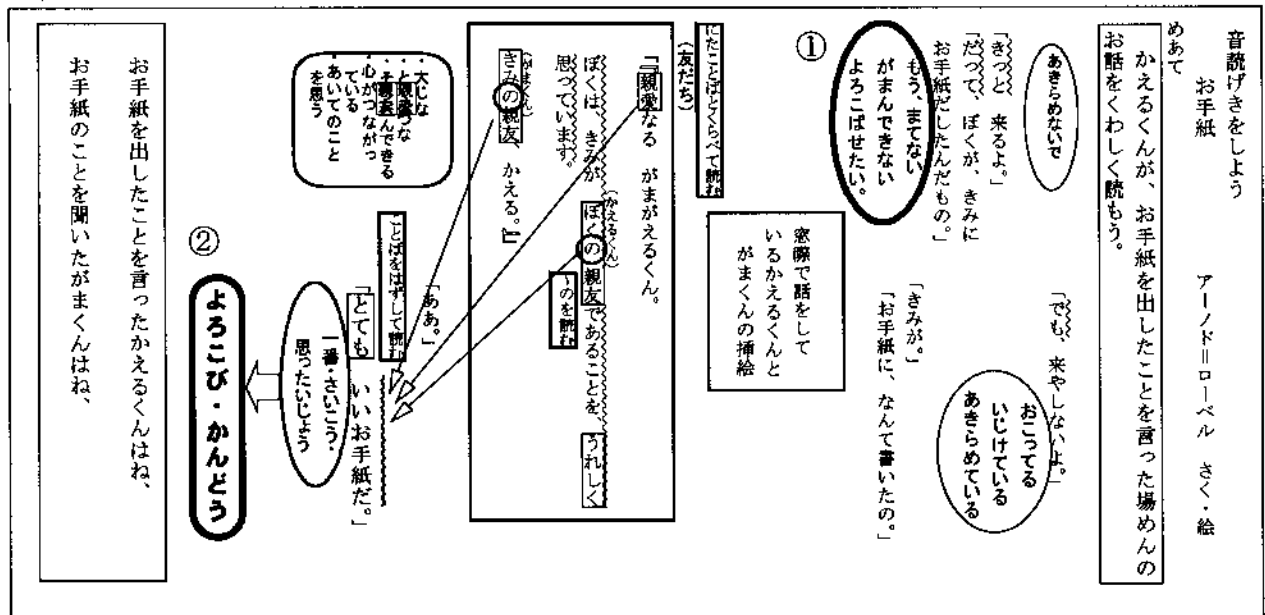
まず、本時場面を音読し、どうして手紙のことを言ってしまったのかを前時とつないでかえるくんの気持ちをとらえさせ、本時挿絵に着目させることで、がまくんの表情に変化が表れていることに気付かせる。そして、かえるくんは、どんな手紙を書いたのだろうかと叙述にそって、読み取らせ、かえるくんの手紙の内容に目を向けさせる。(焦点化) がまくんが言った「とてもいいお手紙だ。」の文に立ち止まり『とても』に込められた気持ちに気付かせ、何がとてもいい手紙なのかかわかるところにサイドラインを引かせ、自分の考えをもたせる。(書く活動①)

次に、手紙のよさについて考えたことを交流し、かえるくんががまがえるくんを思う気持ちが表れていると思うことを出し合う。(全体交流) そして、少人数で、かえるくんのがまくんに対する友情に気付いたことを「ああ」「とてもいいお手紙だ」という会話文を音読し合い、感じとったことを表現させる。(かっぱタイム) (共有化)

また、かえるくんにとってがまくんは、親友であるという気持ちを、音読により感じとったがまくんの気持ちの変化とつないで、ふたりの心の結びつきにふれさせるようにする。(全体交流)

本時学習のまとめでは、板書をもとに、かえるくんの思いが通じ、自分にも親友がいることに気付いてくれたがまくんの感動や喜びを読み深めたことを振り返る。その際、二人の会話や手紙の内容からくわしく読みとったことを赤チョークで囲み、番号をつけて板書に位置づける。(可視化) そして、書き出しを与え、かえるくんのがまくんを思う気持ちや様子を書きまとめさせたい。最後に、本時で使った読み方について振り返ると共に、読み深めたことをもとに、気持ちが表れるように音読を工夫させ、読みのまとめをする。

8 板書計画



9 本時展開

学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化・可視化・共有化の視点から※評価規準)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="193 331 778 427" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かえるくんがお手紙を出したことを言った場めんのお話をくわしく読もう。</p> </div> <p>2 かえるくんが、お手紙を出したことを言ってしまった理由とそれを聞いたがまくんの様子や気持ちについて話し合う。</p> <p>(1) 本時場面を音読する。</p> <p>(2) 会話文から、かえるくんが手紙のことを話す気持ちを考える。</p> <p>(3) かえるくんが書いた手紙の何が「とてもいいお手紙」なのかサイドラインを引く。 (書く活動①)</p> <p>(4) 手紙のよさについて考え、話し合う。 (全体交流)</p> <p>(5) お手紙の内容を聞いて、かえるくんの気持ちに気付いたがまくんの気持ちになって「ああ。」を音読し合う。 (かっぱタイム) (全体交流)</p>	<p>○ 前時のまとめを振り返り、「なぜ、かえるくんはお手紙のことを話したのかな。」「何がいいお手紙なのかな。」という疑問を解決して、今日のかえるくんのお話を詳しくお家の人に伝えることを確認し、本時の見通しを持たせる。</p> <p>○ はきはきと読むように指示する。</p> <p>○ がまくんが手紙をあきらめて不機嫌になってしまった前場面のがまくんの様子と本時の会話文をつないで、とうとうお手紙のことを話してしまったかえるくんの気持ちを考えさせる。</p> <p>☆ かえるくんの書いた手紙の何がいいのかを手がかりにかえるくんの思いやがまくんの気持ちについて考えさせる。(焦点化)</p> <p>☆ がまくんの言葉をどのように感じたのかを音読し合い、互いの表現について交流させる。(共有化)</p> <p>①どんな声で、②どんな顔で、③どこを見ながら音読するのかを意識させる。</p>
<div data-bbox="193 1227 778 1494" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「うれしかったからだよ。」 ・「聞いてびっくりしたよ。」 ・「早く、そのお手紙を読みたいなあ。」 ・「ぼくのこと励ましてくれてありがとう。」 ・「かえるくんの気持ちに気づかなくて、わがまま言ってごめんね。」 </div>	<div data-bbox="801 1227 1390 1440" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆話形の提示</p> <p>C1「ああ。」(ゆっくり)「とてもいいお手紙だ。」</p> <p>C2「どうしてそんなふうにしたの。」</p> <p>C1「だって、～だから。」</p> <p>C3「どうしてそう思ったの。」</p> </div> <p>* 自分や友達表現の工夫に気づき、楽しく音読し合うことができている。</p>
<p>3 本時の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 本時学習を振り返り書きまとめ、発表する。(書く活動②)</p> <div data-bbox="193 1675 1390 1816" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お手紙を出したことを言ったかえるくんはね、がまくんのことがとても大切な友だちだと思っているから、がまんできずに言ったんだよ。 お手紙のことを聞いたがまくんはね、自分がかえるくんの大切な友だちだということがわかって、とてもかんだうしたんだよ。</p> </div> <p>(2) 本時で使った「読みのたから」を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉ははずして読む。 ・似た言葉を読む。 ・「～の」を読む。 <p>(3) 読む深めたことをもとに音読する。</p>	<p>☆ 2人の会話やお手紙の内容からくわしく読み取ったことを赤チョークで囲み、番号をつけて板書に位置づける(可視化)</p> <p>* 板書をもとに、書き出しを提示した学習プリントに読み深めたかえるくんのがまくんへの一生懸命な思いと身近に親友がいることに気付いたがまくんの気持ちをまとめている。</p>

5 本時(7/15)

公開授業① 読み深め①

6 本時の目標

- たたみかけるような文末表現や複合語に着目させ、がまくんにお手紙を書いて喜ばせようと急いでいる、かえるくんの気持ちを読み深めることができるようにする。
- 3人組の対話で、毎日郵便受けの前に座ってお手紙を待つがまくんの様子を描いた挿絵をもとに、お手紙をかたつむりくんに託したかえるくんの行動のわけを話し合うことができるようにする。

7 本時指導の考え方

前時まで、子どもたちは読みのめあてをつくり、かえるくんとがまくんのしたことをつないであらすじをまとめている。そして、初めの考えをもとにして読み深めのめあてをつくり、場面ごとに学習計画を立ててきている。

本時は、かえるくんが大急ぎで家へ帰ってがまくんへお手紙を書き、かたつむりくんにお手紙を頼む様子からがまくんを喜ばせようとするかえるくんの気持ちを読み深めていく場面である。

まず、本時場面を音読し、かえるくんが急いでいる叙述に着目させ、たくさんのことをしていることをとらえさせる。そこで、解決するために大切な言葉にサイドラインを引かせる。(書く活動①)(**焦点化**)「大いそぎ」の「大」をはずして読むことや、「とび出しました。」の「とぶ」と「出る」を分けて読むこと、そして「見つけました／書きました／入れました／書きました…」と主語が抜けて、たたみかけるような文末表現を読むことで、急いでいることをとらえさせたい。このように急いでいる叙述をとらえさせ、なぜこんなにかえるくんは急いでいるかを考え、話し合わせる。そして、かえるくんは早くがまくんに手紙を出して喜んでもらいたいという気持ちをとらえさせる。

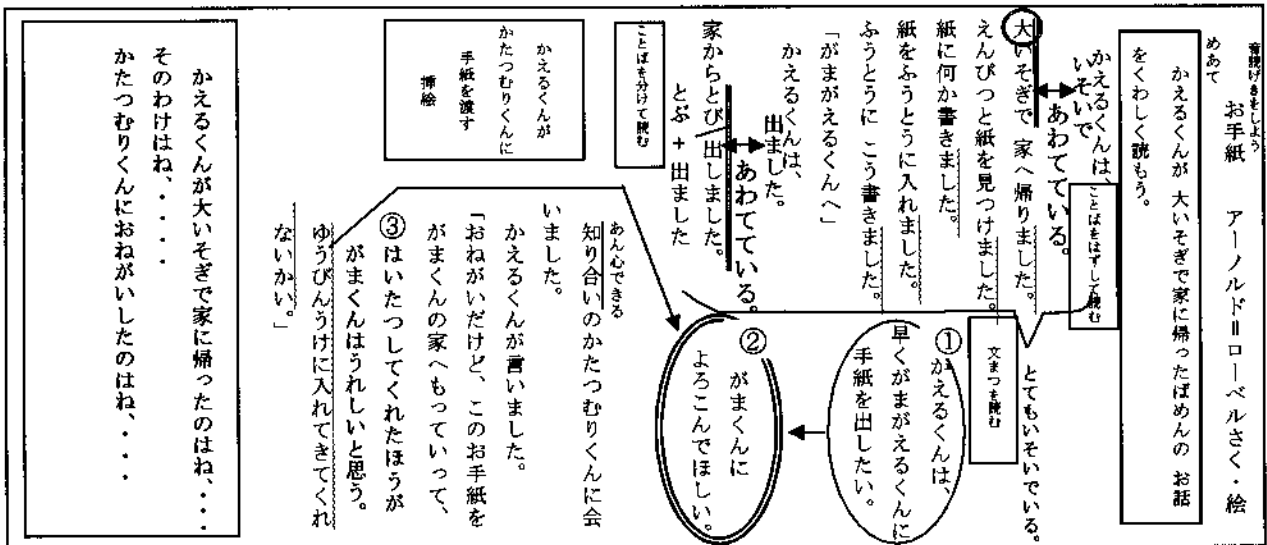
(全体交流)(共有化)

次に、急いでいるにもかかわらず、なぜ自分で渡さずに知り合いのかたつむりくんへ手紙を届けるようお願いしたかを考え、話し合わせる。ここでは、自分ではない誰かにお手紙を配達してもらった方が本物のお手紙のようで、がまくんがより喜んでくれるだろうという、かえるくんのがまくんを思う気持ちをつかませたい。そこで前場面を振り返って、場面と場面をつなげながら読み深めていくようにする。(かっぱタイム・全体交流)

本時学習のまとめでは、板書をもとに、書き出しを提示した学習プリントに読み深めたことを様子・わけの順に書きまとめさせる。その際、板書では、くわしくなったかえるくんの様子とわけを赤チョークで囲み、番号をつける。(可視化)

最後に、本時で使った読み方について振り返ると共に、読み深めたことをもとに、気持ちが表れるように音読を工夫させ、読みのまとめをする。

8 板書計画



9 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化, 可視化, 共有化の視点から*評価規準)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">かえるくんが大いそぎで家に帰った場面のお話をくわしく読もう。</div> <p>2 本時場面を読み、かえるくんが急いだ様子 と理由について話し合う。</p> <p>(1) 本時場面を音読する。</p> <p>(2) かえるくんが急いでいる様子が分かる ところにサイドラインを引く。 (書く活動①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大いそぎ ・とび出しました。 ・(見つけました。/(書き)ました。/(入 れ)ました。/(書き)ました。 <p>(3) かえるくんが急いでいる様子を話し 合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大いそぎで」と「いそいで」の比較 ・「とび出しました」と「出ました」の比 較 ・主語の省略による効果。 <p>(4) かたつむりくんをお願いした理由を話し 合う。(かっぱタイム・全体交流)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「かたつむりくんが現れたからだよ。」 ・「がまくんが悲しそうにしていたから。」 ・「からっぽのポストにお手紙が届いた方が がまくんが喜んでくれると思ったからだ よ。」 </div> <p>3 本時の学習をまとめる。</p> <p>(1) 本時学習を振り返り書きまとめ、発表す る。(書く活動②)</p>	<p>○ 前時のまとめを振り返り、「なぜ大急ぎで帰った か。」「なぜ知り合いのかたつむりくんにお願 いしたのか。」という疑問を解決して、今日のか えるくんのお話を詳しくおうちの人に伝えるこ とを確認し、本時の見通しをもたせる。</p> <p>○ はきはきと読むように指示する。</p> <p>☆ この場面の疑問について明らかにするために、 かえるくんが急いでいる様子がわかる文にサイ ドラインを引かせる。(焦点化)</p> <p>○ 「大いそぎ」の「大」をはずして言葉を比べ たり、「とび出しました」の「とぶ」「出る」の それぞれの言葉の意味をとらえさせたりする。</p> <p>○ 「…ました。」が続いた文末に着目し、主語 が省略されている時の効果について気付かせ る。</p> <p>○ かえるくんが早く手紙を出して、かえるく んに喜んでもらいたい気持ちをとらえさせ る。</p> <p>☆ かえるくんが自分でお手紙をわたさなかつ た理由の根拠を叙述から示させる。(共有化)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆ 話形の提示</p> <p>C1「どうして自分でわたさないで、かたつむ りくんをお願いしたの。」</p> <p>C2「だって～だから。」</p> <p>C3「どうしてそう思ったの。」</p> <p>C2「それは～だからだよ。」</p> </div> <p>* 少人数で進んで話し合い、共感的な態度で聞 いている。</p> <p>☆ 詳しくなったかえるくんの様子とわけを赤 チョークで囲み、番号を付けて板書し、書きま とめさせる。(可視化)</p>
<p>(2) 本時で使った「読みのたから」を振り返 る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉をはずして読む。 ・文末表現を読む。 ・言葉を分けて読む。 <p>(3) 読み深めたことをもとに音読する。</p>	<p>* 板書をもとに、書き出しを提示した学習プ リントに読み深めたことを様子・わけの順に書 きまとめている。</p>

5 本時 (8 / 15)

公開授業② 読み深め②

6 本時の目標

- 「見ました」「のぞきました」という類義語と繰り返しの表現に着目させ、かたつむりくんに託した「お手紙」を待つかえるくんの気持ちを読み取ることができるようにする。
- 3人組の対話で、まどからのぞくかえるくんの姿を動作化しながら、その行動のわけを話し合うことができるようにする。

7 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、これまでにお手紙をいちどももらったことのないがまくんのためにかえるくんが、「大いそぎで家に帰り」「手紙を書き」そのお手紙を自分自身で届けるのではなく、「知り合いのかたつむりくんががまがえるくんのゆうびんうけにお手紙を入れてくることをたのんだ」ところから、がまくんに対するかえるくんの思いやりを読み取ってきている。

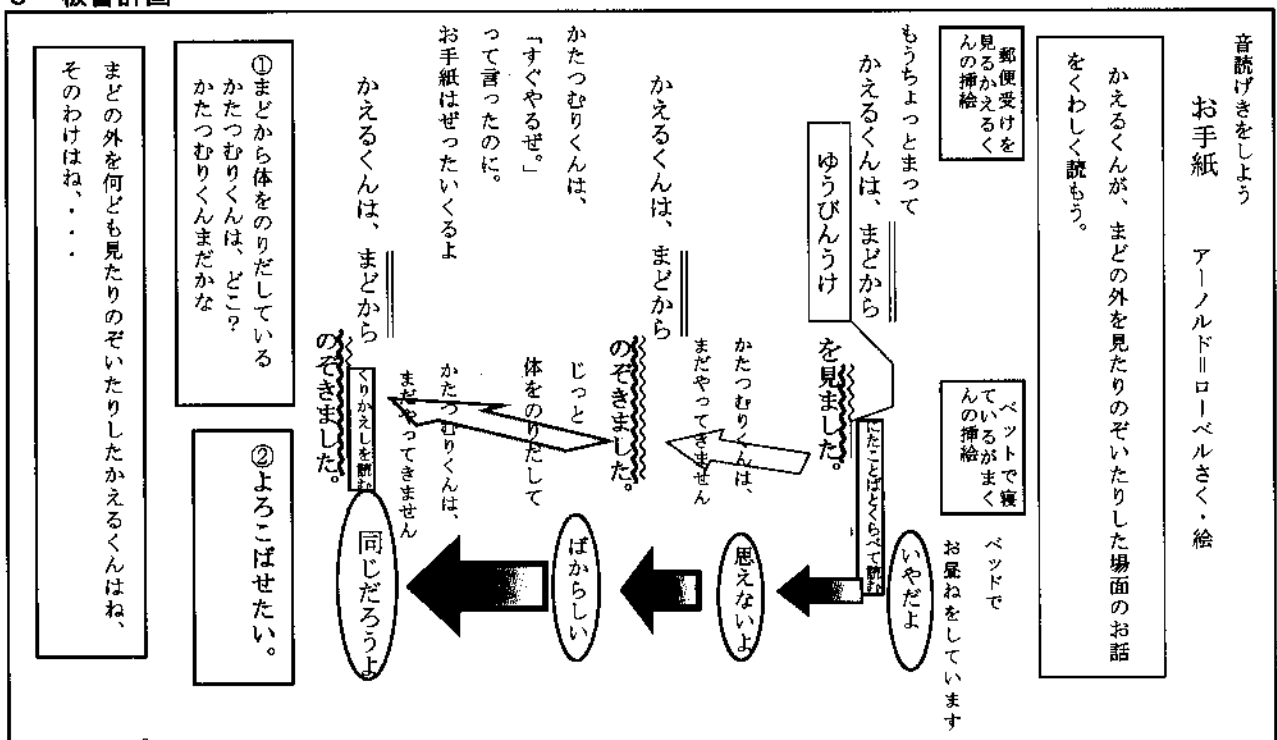
本時は、自分が書いたお手紙をゆうびんうけを介して渡したいかえるくんが、お手紙を待つことにあきあきしたがまくんを懸命に励ましながらかたつむりくんの到着 (=お手紙の到着) を待ちわびる場面である。

まず、本時場面を音読し、「かえるくんは、ゆうびんうけを見ました。」と2回繰り返される「かえるくんは、まどからのぞきました」の叙述に着目させ、かえるくんがしたことサイドラインを引かせる。(書く活動①) (焦点化) そして、挿絵からかえるくんがゆうびんうけを「見た」ときの様子を読み取り、「のぞいた」とき、さらに「のぞいた」ときの行動の違いを動作化することでかえるくんが、のぞいて見ているものを考えさせる。(かっぱタイム) 繰り返しのぞく理由をかえるくんの叙述を根拠に全体交流で話し合うことで、かえるくんのがまくんを思いやる気持ちに気付かせる。(共有化)

本時学習のまとめでは、何度も外を見るかえるくんのくわしくなった様子①にかたつむりくんを待ちわびるかえるくんのがまくんへ気持ち②を板書上にチョークで記号を付けて囲む。(可視化) これをつなぎながら書きまとめさせる。(書く活動②)

最後に、本時で使った読み方について振り返ると共に、理解したことをお互いに確かめるためにかえるくんの会話文を中心に音読をさせ読みのまとめをする。

8 板書計画



9 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化・可視化・共有化の視点から*評価規準)
<p>1 本時めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">かえるくんがまどの外を見たり、のぞいたりした場めんのお話をくわしく読もう。</div> <p>2 本時場面を読み、かえるくんがどんなふう にまどからゆうびんうけを見たりのぞいたり したのかその様子と理由について話し合う。</p> <p>(1) 本時場面を音読する。</p> <p>(2) かえるくんがしたことが分かる文にサイドラ インを引く。 (書く活動①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆうびんうけを見ました。 ・まどからのぞきました。 ・まどからのぞきました。 <p>(3) 2回繰り返す「のぞきました」の様子を 話し合う。(かっぱタイム)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「だんだん体が、まどの外に出るよ。」 ・「体を乗り出して外を見るよ。」 ・「かえるくんどこを見てるの？」 ・「ゆうびんうけのもっとむこうを見てる。」 ・「かたつむりくんをまってるんだよ。」 </div> <p>(4) 動作化したかえるくんの様子から気持ち を読み取る。 (全体交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんをよろこばせたい。 ・お手紙をあきらめないでほしい。 ・がまくんをはげましたい。 <p>3 本時の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 本時学習を振り返り書きまとめ、発表す る。 (書く活動②)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">まどの外を何でも見たりのぞいたりしたときのかえるくんはね、かたつむりくんがお手紙をゆうびんうけに入れてくれるのがまちどおしくて、遠くまでのぞいたんだよ。そのわけはね、お手紙をまつのにあきあきしているがまくんをはげましたくてよろこばせたかったからだよ。</div>	<p>○ 前時のまとめを振り返り、「どんなふう にのぞいたか。」「どうして、またのぞいた のか。」という疑問を解決して今日のかえ るくんのお話を詳しくおうちの人に伝える ことを確認し、本時の見通しをもたせる。</p> <p>○ はきはきと読むように指示する。</p> <p>☆ この場面の疑問について、明らかにする ためにかえるくんのしたことにサイドラ インを引かせる。 (焦点化)</p> <p>○ 「見ました。」「のぞきました。」のちが いを挿絵をもとに捉えさせる。</p> <p>☆ 2回の「のぞきました。」のちがいを捉 えさせるために動作化させる。(共有化)</p> <p>①どこを見ているのか②何を見ているのか ③どんな顔をしているのかを意識させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>☆話形の提示</p> <p>C1「かえるくんどこを見てるの？」</p> <p>C2「○○を見ているんだよ。」</p> <p>C3「どうして○○を見ているの？」</p> <p>C2「だってね、～だからだよ。」</p> </div> <p>* 少人数で進んで話し合い、共感的な態度 で聞く。</p> <p>○ かえるくんが、かたつむりくんをまちわ びる根拠を叙述から示させる。</p> <p>☆ かたつむりくんが、お手紙をゆうびんう けに入れてくれるのを待ちわびる様子とか えるくんのがまくんへの気持ちを赤チョ ークで囲み番号を付けて板書し、書きまと めさせる。(可視化)</p>
<p>(2) 本時で使った「読みのたから」を振り返 る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの言葉を読む。 ・似た言葉と比べて読む。 <p>(3) 読み深めたことをもとに音読する。</p>	<p>* 板書をもとに、書き出しを提示した学習 プリントに読み深めたことを様子・わけの 順に書きまとめている。</p>

5 本時 (9 / 15)
公開授業② 読み深め③

6 本時の目標

- 言葉をはずしたり、似た言葉を比べたり、助詞「の」に着目したりしながら、お手紙を出したことを言ってしまったかえるくんの気持ちや、お手紙のことを聞いて「ああ」「とてもいいお手紙だ」と言ったがまくんの気持ちを読み深めることができるようにする。
- 3人組の対話で、一人一人の「ああ」「とてもいいお手紙だ」を音読し合いながら、読み深めたがまくんの気持ちを確かめることができるようにする。

7 本時指導の考え方

前時まで、子どもたちは、あきらめて投げやりになっているがまくんと、早くお手紙が届かないかと待ちながら懸命にがまくんを励まそうとするかえるくんの様子や気持ちを読み取ってきている。本時は、お手紙をすっかりあきらめているがまくんを見て、お手紙を書いたことを打ち明けずにはいられなかったかえるくんの気持ちやお手紙の内容を知り、「ああ」「とてもいいお手紙だ。」と感動するがまくんの気持ちを読み深めていく場面である。

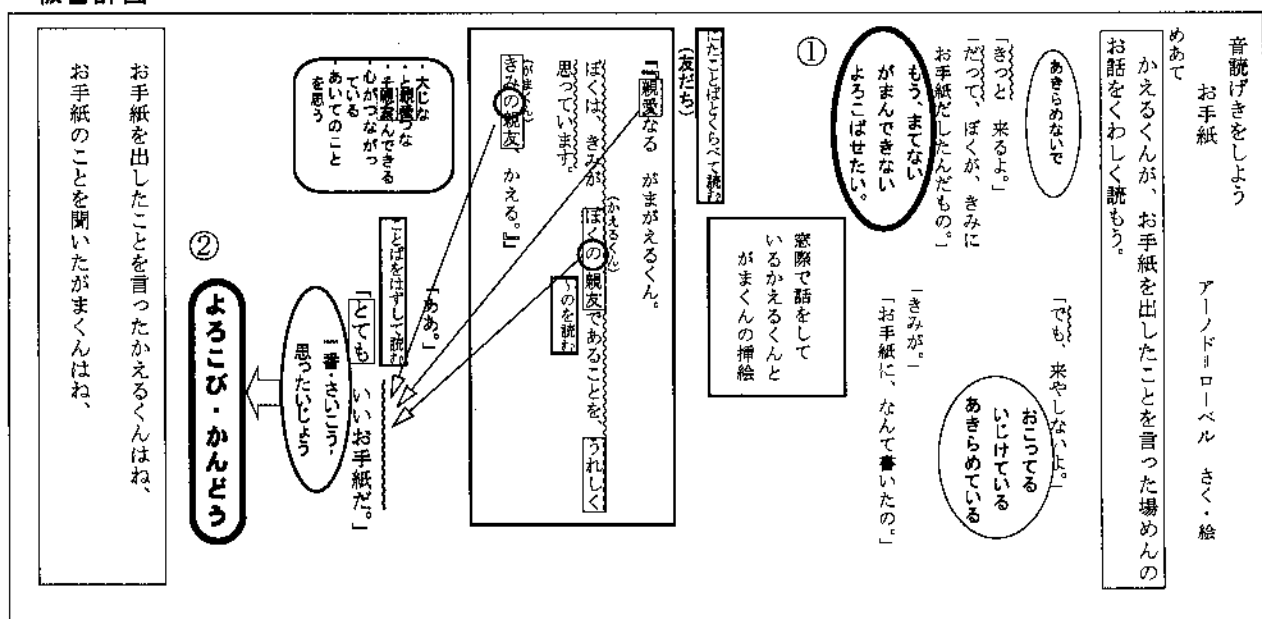
まず、本時場面を音読し、どうして手紙のことを言ってしまったのかを前時とつないでかえるくんの気持ちをとらえさせ、本時挿絵に着目させることで、がまくんの表情に変化が表れていることに気付かせる。そして、かえるくんは、どんな手紙を書いたのだろうかと叙述にそって、読み取らせ、かえるくんの手紙の内容に目を向けさせる。**(焦点化)** がまくんが言った「とてもいいお手紙だ。」の文に立ち止まり『とても』に込められた気持ちに気付かせ、何がとてもいい手紙なのかわかる場所にサイドラインを引かせ、自分の考えをもたせる。**(書く活動①)**

次に、手紙のよさについて考えたことを交流し、かえるくんががまがえるくんを思う気持ちが表れていると思うことを出し合う。**(全体交流)** そして、少人数で、かえるくんのがまくんに対する友情に気付いたことを「ああ」「とてもいいお手紙だ」という会話文を音読し合い、感じとったことを表現させる。**(かっぱタイム) (共有化)**

また、かえるくんにとってがまくんは、親友であるという気持ちを、音読により感じとったがまくんの気持ちの変化とつないで、ふたりの心の結びつきにふれさせるようにする。**(全体交流)**

本時学習のまとめでは、板書をもとに、かえるくんの思いが通じ、自分にも親友がいることに気付いてくれたがまくんの感動や喜びを読み深めたことを振り返る。その際、二人の会話や手紙の内容からくわしく読みとったことを赤チョークで囲み、番号をつけて板書に位置づける。**(可視化)** そして、書き出しを与え、かえるくんのがまくんを思う気持ちや様子を書きまとめさせたい。最後に、本時で使った読み方について振り返ると共に、読み深めたことをもとに、気持ちが表れるように音読を工夫させ、読みのまとめをする。

8 板書計画



9 本時展開

学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化・可視化・共有化の視点から※評価規準)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div data-bbox="193 331 780 434" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>かえるくんがお手紙を出したことを言った場めんのお話をくわしく読もう。</p> </div> <p>2 かえるくんが、お手紙を出したことを言ってしまった理由とそれを聞いたがまくんの様子や気持ちについて話し合う。</p> <p>(1) 本時場面を音読する。</p> <p>(2) 会話文から、かえるくんが手紙のことを話す気持ちを考える。</p> <p>(3) かえるくんが書いた手紙の何が「とてもいいお手紙」なのかサイドラインを引く。 (書く活動①)</p> <p>(4) 手紙のよさについて考え、話し合う。 (全体交流)</p> <p>(5) お手紙の内容を聞いて、かえるくんの気持ちに気付いたがまくんの気持ちになって「ああ。」を音読し合う。 (かっぱタイム) (全体交流)</p>	<p>○ 前時のまとめを振り返り、「なぜ、かえるくんはお手紙のことを話したのかな。」「何がいいお手紙なのかな。」という疑問を解決して、今日のかえるくんのお話を詳しくお家の人に伝えることを確認し、本時の見通しを持たせる。</p> <p>○ はきはきと読むように指示する。</p> <p>○ がまくんが手紙をあきらめて不機嫌になってしまった前場面のがまくんの様子と本時の会話文をつないで、とうとうお手紙のことを話してしまったかえるくんの気持ちを考えさせる。</p> <p>☆ かえるくんの書いた手紙の何がいいのかを手がかりにかえるくんの思いやがまくんの気持ちについて考えさせる。(焦点化)</p> <p>☆ がまくんの言葉をどのように感じたのかを音読し合い、互いの表現について交流させる。 (共有化)</p> <p>①どんな声で、②どんな顔で、③どこを見ながら音読するのかを意識させる。</p>
<div data-bbox="193 1234 780 1496" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「うれしかったからだよ。」 ・「聞いてびっくりしたよ。」 ・「早く、そのお手紙を読みたいなあ。」 ・「ぼくのこと励ましてくれてありがとう。」 ・「かえるくんの気持ちに気づかなくて、わがまま言ってごめんね。」 </div>	<div data-bbox="799 1234 1399 1442" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆話形の提示</p> <p>C1「ああ。」(ゆっくり)「とてもいいお手紙だ。」</p> <p>C2「どうしてそんなふうにしたの。」</p> <p>C1「だって、～だから。」</p> <p>C3「どうしてそう思ったの。」</p> </div>
<p>3 本時の学習のまとめをする。</p> <p>(1) 本時学習を振り返り書きまとめ、発表する。(書く活動②)</p>	<p>* 自分や友達の実現の工夫に気付き、楽しく音読し合うことができている。</p> <p>☆ 2人の会話やお手紙の内容からくわしく読み取ったことを赤チョークで囲み、番号をつけて板書に位置づける(可視化)</p>
<div data-bbox="193 1682 1399 1821" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お手紙を出したことを言ったかえるくんはね、がまくんのことととても大切な友だちだと思っているから、がまんできずに言ったんだよ。</p> <p>お手紙のことを聞いたがまくんはね、自分がかえるくんの大切な友だちだということがわかって、とてもかんだうしたんだよ。</p> </div>	
<p>(2) 本時で使った「読みのたから」を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉をはずして読む。 ・似た言葉を読む。 ・「～の」を読む。 <p>(3) 読み深めたことをもとに音読する。</p>	<p>* 板書をもとに、書き出しを提示した学習プリントに読み深めたかえるくんのがまくんへの一生懸命な思いと身近に親友がいることに気付いたがまくんの気持ちをまとめています。</p>